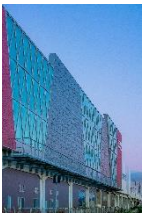


医師会だより



医療用麻薬

オピオイド系鎮痛剤

医療用麻薬は、癌などの強い痛みを押さえるために用いられる鎮痛剤で緩和ケアに欠くことはできない薬です。モルヒネを代表としてほかにもオキシコドン、フェンタニル等があり、総称して「オピオイド系鎮痛剤」と呼ばれています。入院時だけではなく外来や在宅医療でも使えるように、注射薬に加え飲み薬や貼り薬もあります。

上手に使い痛みから解放

麻薬と聞くと、「中毒になる」「死ぬ間際に使う」「等誤った印象があり、使用するに抵抗を覚える人が多くいます。大腸癌で亡くなったある男性、俳優が「夜中に痛みが強く、モルヒネで殺してくれと言った。」と会見で述べまし

「あなたの笑顔が必要です！」大村市医師会潜在看護師研修事業

看護師への復職を考えている方、復職のための研修を受けてみませんか。詳しくは大村市医師会まで。

た。ですが、医療用麻薬は決して死を早める薬ではありません。上手く使うことで痛みから解放され、日常生活に過ごすことができるといいます。

慢性疼痛にも使用可

痛みの強い人に使用する場合は中毒にならないと言われている以外でも、今日では、癌の痛みなど長期にわたり痛みや腰痛など日常生活に支障を来す慢性疼痛にも使用されるようになってきました。特に、アメリカでの使用は多く、以前逮捕されたその後の不起訴となつたトヨタの米国人女性副社長も慢性疼痛の痛み止めとして服用していたことが国では欧米に少なくない使用頻度はまだまだ少ないのが現状です。

正しい理解が大切

それは、最初に書いたように、麻薬に対する多くの誤った印象を持つている人が多く、医療関係者の間でも、「長年使っても本当に中毒にならないのか」と言わないためです。使用開始当初には、便秘やめまい、吐き気などの副作用もあり、吐き気などの副作用もあつて、これを上手に対処しなければ、効果が出る前に中止してしまふ場合があります。

しかし、痛みのために日常生活に支障を来している人にとつて痛みを取ることは生きる喜びをもたらすものであり、医療用麻薬は強い痛みで苦しむ人にとつて福音となることは間違いなく、今後その使用は増えていくものと思われ、適切な使用も研究を進め、世間の誤解を解き、その有効性を強く啓発していく必要があり、まず「麻薬だから」と頭から否定するのではなく、日常生活に支障を来すような痛み、特に癌による痛みに苦しんでいる方がおられる相談してかかってみてください。

腰部脊柱管狭窄症

腰部脊柱管狭窄症とは、歩行時や長時間歩くと、腰や足に痛みやしびれ、こむら返りなどの症状が現れる病気です。原因は、加齢による椎间盘の老化、変形、骨棘の増大、骨質の増加などによる椎管や神経根管の狭窄です。

腰部脊柱管狭窄症の診断は、問診、理学検査、画像検査（レントゲン、MRI、CT）などで行われます。治療は、保存療法（薬物療法、理学療法、運動療法）と手術療法（椎板切除術、椎管切除術）があります。

【医心伝心】
「鬼手仏心」
慈悲の心を
苦しむ人から
苦痛を和らげ
ます。

法が、歩行時や長時間歩くと、腰や足に痛みやしびれ、こむら返りなどの症状が現れる病気です。原因は、加齢による椎间盘の老化、変形、骨棘の増大、骨質の増加などによる椎管や神経根管の狭窄です。治療は、保存療法（薬物療法、理学療法、運動療法）と手術療法（椎板切除術、椎管切除術）があります。